

令和元年度学習発表会

今年度の学習発表会は、あいにくの雨模様の中、十月十九日に開催しました。この日の本番に向けて、入所間もない子どもたちも含め、全員が一丸となり、短期間で、練習と準備に取り組んできました。

学習発表会は、展示の部とステージ発表の部の二部門で構成されています。

展示の部では、各教室に、作品やノートを展示することで授業での取り組みの成果をお披露目しました。廊下には、各行事や学期の節目にまとめた作文、各自の個性が光る個人新聞も展示しました。子どもたちも誇らしげに自分の作品を紹介し、保護者や関係機関の皆さんからも、日ごろの取り組みがわかる内容だと褒めていただきました。

ステージ発表の部では、子どもたち

杜陵
だより

第1-2号

発行: 岩手県立杜陵学園
(児童自立支援施設)
〒020-0124 盛岡市
岩手県盛岡市
元岩川二丁目3番1号
電話: 019-641-3365

ち一人一人にスポットライトが当たる中、演奏や朗読を観客の前で最後まで発表しました。内容は、詩の朗読や暗唱、英語による朗読、ピアノの個人演奏、学園生活を紹介するスライド発表と盛りだくさんな内容でした。スライド発表後には、一人一人がステージから、退園に向けた力強い決意を宣言しました。さらに後半のアンサンブル発表では、リコーダー、尺八や箏、ヴァイオリンによる数名ずつの息の合った演奏を披露しました。最後は、体育で取り組んだダンス、職員も加わっての合唱を披露し、およそ2時間にわたるステージ発表の部は幕を閉じました。

学園に入所している子どもたちは、入所前は、どうしても授業や行事に真剣に取り組む経験が乏しかった場合が少なくありません。そんな子どもたちが緊張の中、最後までひたむきに、一生懸命取り組む姿は、お越しいただいた保護者の方や前籍校の先生方の想像を超えることもあるようです。皆さんから「感動した」という声をいただくことができました。この学習発表会が、子どもたちのそういった新たな一面を発見する機会となったのであれば幸いです。

(佐々木美香)



北奥羽児童自立支援施設スポーツ交歓会

九月十三日、北東北三県の児童自立支援施設によるスポーツ交歓会が青森市浪岡体育館で開催されました。今年度の競技種目は、昨年度同様バドミントンでした。杜陵学園では、交歓会に向け例年七月頃からスポーツ活動の中心を野球からバドミントンに変更しますが、今年は全日本少年野球大会（大分大会）がある八月末までスポーツ活動の中心が野球となりました。そのため、練習期間が約2週間と短くなってしまいました。シヤトルの打ち方など基本的な練習のほか、試合形式の実践練習を多く実施し技術向上を図っていきました。

交歓会は一チーム六名でダブルス三組を編成する団体戦形式で行われ、予選リーグで順位を決めた後、全体での順位を決めるトーナメント戦へ進む形式で行われました。杜陵学園からは児童八名で構成した一チームが参加し、試合ごとにダブルス

ペアを変更しながら戦うこととなりました。予選リーグで二勝した杜陵学園チームは、リーグ一位で優勝を決めるトーナメントに進み、トーナメント第一試合でも青森みらいBチームに勝利し決勝戦に進むこととなりました。決勝戦はコート脇で各施設の児童、職員が間近で応援する他、スタンドにいる全員が試合に注目するなど、会場全体が緊張に包まれた雰囲気での試合となりました。対戦相手は昨年度同様青森みらいAチームとなり、第二ペアが終了した時点で一勝一敗という接戦となりました。第三ペアの勝利を信じ児童、職員全員で応援しましたが、惜しくも敗れてしまい、準優勝という結果で交歓会を終えました。

試合後、悔しくて涙を流す児童がいたほか、やり切ったという表情で笑顔を見せる児童もいて、それぞれが自分の頑張りや成

長を感じていました。準優勝という素晴らしい成果を勝ち取ったことを自信とし、今後の生活に活かしてほしいと思います。
(石塚)

陸上部

今年度は十月に行われた「矢巾ロードレース大会」に出場しました。陸上部は練習のみの参加を含めた五名で活動をスタートしました。

残暑が残る九月から週四日、グラウンドでの時間走や坂道ダッシュ等の練習を行いました。気分が乗らなかつたり、疲れてくると弱い自分に負けてしまいそうな児童もいましたが、本番に向け全員で最後まで練習に参加することが出来ました。

大会当日は大勢の参加者の中で子どもたちは緊張した様子でした。女子は三キロ、男子は五キロのコースを走りました。子どもたちは最後まで全力を出し、全員が完走することが出来ました。走り終わった子どもたちからは「悔しい」「もう少し頑張れた」といった感想が聞かれましたが、その表情はとても晴れやかだったのが印象に残っています。マラソンと同じように生活でも苦しくなった時こそ自分との闘いです。今回苦しくても逃げ出さず、最後までやり切った経験が今後の彼らの生活に活かせることを願っています。
(関向)

第70回全日本少年野球大会

八月二十六日から八月二十八日まで、全国少年野球大会に参加しました。六月末に行われた北海道・東北ブロック大会で優勝してから、すぐにこの全国大会の準備が始まりました。会場が大分県ということもあり職員も準備で様々な課題を抱え、児童も地区大会以降なかなかモチベーションを維持できず、七月は難しい時間を過ごしました。しかし、児童にとつてなかなか経験できないこの全国大会。もう一度児童全員を集めて話し合いを行い、目標を確認しました。そこで「全国でまずは一勝」を全員で確認し、練習を再開しました。夏休み期間は全員そろって練習することができませんでしたが、自由時間にも練習したり、一時帰省中にも各自バットを振ったりと徐々に全国大会に向けて気持ちを高めていきました。

そして、八月二十六日、大会会場である大分県に向けて出発

しました。新幹線や飛行機など、数多くの乗り継ぎをしながらの移動でしたが、児童は指示をよく聞いて行動できていました。ホテルに到着し、その日に抽選会が行われました。抽選の結果、対戦相手は東京都の誠明学園となりました。関東大会で準優勝した強豪校です。本番に向けたミーティングを行い、気持ちを一つにして当日を迎えました。

当日は朝から雨が降っており、グラウンドコンディションがかなり悪い中でしたが、気持ちを切らさず試合に臨みました。

いよいよプレイボール。杜陵学園チームは、コンディションも影響したのか序盤からペースをつかめず、数多くピンチを招いて失点してしまいます。それでも集中を切らさず、泥まみれになりながらプレーし、チャンスが来

るまで耐え続けました。終盤、四死球でつなぎ、ようやく杜陵学園にもチャンスが訪れました。そして緊張の場面でチーム初ヒットが生まれ、反撃に成功しました。その後も奮闘を続けましたが及ばず、一―九で初戦敗退となってしまいました。

目標には届かなかったものの、児童それぞれが、達成感だけでなく、「もっと真剣に練習をしておけばよかった。」「チームワークをもっと高めればよかった。」等、後悔の言葉も出てきました。この悔しさを感じることで、子どもたちもさらに成長できると感じました。

最後に、全国大会参加に際しまして、数多くの関係者の皆様から温かい応援や支援をいただきました。本当にありがとうございます。

(小野)

小、中3修学旅行

今年度の小学校修学旅行は、九月五日（木）から六日（金）の一泊二日で函館方面に行きました。一日目は、主に函館市電に乗り函館市内を周り、函館の景色や食文化を楽しみました。元町のガラス工房では、キーホルダー作成体験を行うことができました。二日目は、五稜郭公園方面に行き、函館の歴史や文化に触れることができました。

二日間を通し、公共のマナーもしっかり守り、思い出に残る修学旅行になりました。しおり作りや、事後学習のまとめもしっかりと行いました。
(主濱)

私達中学三年生は、男子生徒四名、女子生徒一名、計五名で、函館市への二泊三日の修学旅行へ行ってきました。昨年度の場所は東京でし

たが、今年度は北の大地北海道へ行先を変更し実施しました。

函館周辺の文化、歴史、自然を堪能できた有意義な修学旅行となりました。ほとんどの生徒が初めての北海道訪問であり、おいしい食べ物と温泉に皆満足して帰ってきました。そして、何より「無事に全行程を実施できたこと」「ルールを守り、公共の場でも適切な行動をとれたこと」が大変うれしいです。スロージャーガン「共に学ぶ」が生徒達自身の力で達成できたことは、大きな成長です。これからの成長にも期待しています。
(田口)

児童入所状況

月	8	9	10	11	12	延計
月初人数	10	9	12	12	13	
月中入所	0	4	0	1	0	
月中退所	1	1	0	0	1	

(単位：名)

皆様からのご意見・ご感想は、インターネットでも受け付けております。

主要行事(1月~3月)

- 1月 3学期始業式
冬休み明けテスト
- 2月 スキー教室
期末テスト
- 3月 修了式・卒業式
退園式

編集後記

二学期は、紙面を彩る行事が多くありました。紙面には乗らなかつた日々の積み重ねの成果が、行事の中で発揮されていたように思います。そんな子どもたちの姿が、読者の皆様に少しでも届くことを願っています。
(佐々木聖人)